教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 日本語日本文学科　　資格： 准教授　　氏名： 野畑　理佳

研究分野	研究内容のキーワード
日本語教育学	日本語教育、自律学習、学習動機、異文化間コミュニケーション
学位	最終学歴
修士（言語・文化学）	大阪外国語大学大学院　外国語学研究科　日本語学専攻

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1.高年級綜合日本語　下冊	2015年6月	総主編：彭広陸、守屋三千代 本冊主編：応杰、秦剛、百留康晴、編者：丁莉、何琳、劉健、孫佳音、王軼群、今井寿枝、遠藤織枝、岡智之、押尾和美、野畑理佳、百留恵美子、平高史也 （北京大学出版社）
2.高年級綜合日本語　上冊	2014年1月	総主編：彭広陸、守屋三千代 本冊主編：応杰、秦剛、百留康晴、編者：丁莉、何琳、劉健、孫佳音、王軼群、今井寿枝、遠藤織枝、岡智之、押尾和美、野畑理佳、百留恵美子、平高史也 （北京大学出版社）
3.綜合日語　第三冊　（改訂版）	2010年8月	改訂に際し、日本側総主編として執筆協力
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.Microsoft Office Specialist (PowerPoint 2010)	2015年6月29日	合格
2.Microsoft Office Specialist (Word 2010)	2015年6月27日	合格
3.ACTFL Oral Proficiency Tester	2001年6月5日　テスター資格最終更新：2007年4月23日	アメリカ外国語協会認定インタビューによる外国語口頭運用能力判定試験官資格
4.日本語教育能力検定試験	1995年3月23日	合格
5.中学校教諭　第1種教員免許	1994年3月31日	国語科
6.高等学校教諭　第1種教員免許	1994年3月31日	国語科
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.国立国語研究所　2004年度上級研修		修了

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
3 学術論文				
1.「日本語教師によるオートバイオグラフィーの実践と考察―日本語教師の「ことば」をめぐる経験の語りから―」（査読付）	共	2025年6月刊行予定	第 13 回国際日本語教育・日本研究シンポジウム論文集	「ことば」を教育対象として扱うという日本語教師の特性に着目し、ある日本語教師が自身の内的キャリア形成をどのように捉えていたかを、「言語ヒストリー（LH）」と「言語ポートレイト」によるオートバイオグラフィーとしての語りを観察することで考察した。その結果、ことばをめぐる様々な経験の中で日本語教師としての内的キャリアが変容していたことが明らかとなった。実践においては、経験を肯定的、共感的に解釈したピアが重要な役割を果たしていたが、ピア自身もLH、言語ポートレイトの語り手を経験していたことがIの経験の解釈にプラスに影響している可能性も示唆され

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				た。 和泉元千春、野畑理佳、小林浩明 共同研究者：上田和子
2.日本語学習動機研究の動向 ―質的研究を中心に― （査読付）	単	2024年9月	『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』 第25巻第1号	日本語学習動機研究は第二言語学習動機研究に影響を受けながら発展してきた。過去の日本語学習動機研究の動向論文からは、質的研究の不足と研究への参加者が限定されていることが指摘されてきた。本稿は日本語学習動機研究の動向を把握するため、CiNii Researchにおいて1992年から2022年において日本語学習動機研究の論文を抽出したが、そのうち65が質的研究であることがわかった。質的研究の成果として、社会的に埋め込まれた学習動機の発達を捉えることに貢献しているが、第二言語習得研究における社会的転回（ソーシャル・ターン）の影響はまだ十分ではない。
3.ベトナム出身の留学生が専門学校へ進学する理由とは―留学のプッシュ・プル要因との関連から―（査読付）	単	2023年12月23日	『言語文化教育研究』第21巻	近年急増するアジア非漢字圏学習者のうちベトナムの学習者に焦点を当てインタビュー調査を行い，なぜ専門学校へ進学したのかについて，日本留学のプッシュ・プル要因と関連づけてうえの式質的分析法により分析した。プッシュ・プル要因は多様であるが，来日後には現実的な選択により理想自己の修正が迫られ，大学ではなく専門学校を進路として選択するケースや，日本での就業経験というキャリア形成の近道として専門学校が選択されるケースが見られた。
4.2022年度 日本語教育関連活動の報告	共	2023年3月27日	『武庫川国文』第94号	概要：2022年度に実施した日本語教育関連活動の報告。資格関連科目の活動およびオンラインを含めた交流会活動について報告し、その成果と課題について報告した。 執筆者：野畑理佳、上田和子 担当個所：1，3.1.1，3.2.1，3.2.2，3.3.2，3.4.1，3.4.2，4,5
5.留学中の日本語学習動機とコミュニケーション意欲の観察 ―交換留学生のL2理想自己、L2義務自己をもとに― （査読付）	単	2021年12月	武庫川女子大学紀要 第69巻	概要：日本語を主専攻とする東アジア（中国および韓国）の交換留学生を対象とし、留学期間中の日本語学習動機の変化の要因と、日本語コミュニケーション意欲との関連について、L2理想自己・L2義務自己に着目しながらSCATによる分析を行った。
6.2021年度前期 日本語オンライン交流会活動の実践	共	2021年8月31日	『武庫川国文』第91号 武庫川女子大学国文学会	概要：2021年度前期に実施した日本語教育関連活動の報告。科目横断的に実施したオンラインでの交流活動の特性と課題について報告した。 執筆者：上田和子、野畑理佳 担当個所：2-2，3-2を担当、5-2・3の一部
7.2020年度日本語教育関連活動の報告 -オンライン時代における交流活動の実践と検証-	共	2021年3月	『武庫川国文』第90号 武庫川女子大学国文学会	概要：2020年度に実施した日本語教育関連活動の報告。オンラインでの交流活動が中心となったため、その成果と課題について報告した。 執筆者：上田和子、野畑理佳 担当個所：2-2，3-3，3-4，3-5を担当、4の一部
8.留学中の日本語学習者の情意要因の観察 -コミュニケーション意欲の変化とその要因- （査読付）	単	2020年12月	『武庫川女子大学紀要』 第68巻（2020）	概要：日本語コミュニケーション意欲の変化にかかわる情意要因について、交換留学生を対象としインタビュー調査を実施し、SCATにより分析した結果を報告した。
9.2019年度日本語教育関連活動の報告	共	2020年3月20日	『武庫川国文』第88号 武庫川女子大学国文学会研究部会	2019年度の日本語日本文学科における日本語教育関連科目で実施した活動の報告。 執筆者：上田和子、野畑理佳 担当部分：4.6を中心に該当部分
10.2018年度日本語教育関連活動の報告	共	2019年3月20日	『武庫川国文』第86号 武庫川女子大学国文学会研究部会	概要 ：2018年度 日本語日本文学科における日本語教育関連科目で実施した活動の報告。 執筆者：上田和子、野畑理佳 担当部分：4-3、4-4の一部および全体的な修正
11.『まるごと 日本のことばと文化』を主教材とした専門日本	共	2017年3月	『日本語教育紀要』第13号、国際交流基金、pp.55-	概要 ：国際交流基金関西国際センターで実施されている外交官・公務員研修においては主教材を『みんなの日本語』から『まるごと 日本のことばと文化』に変更した。それに伴う新たなコースデザ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
語研修のコースデザインと成果　（査読付）			70	インおよび各科目のデザインと実践を報告し、研修の成果としてテスト結果、自己評価、満足度および教師の気づきについて述べた。 執筆者　：羽太園、野畑理佳、東健太郎、戸田淑子、安達祥子 担当部分：主に「3.4.3各科目のデザイン」の「(1)活動」を執筆、その他全体的な修正を行った。
12.短期訪日研修における学習者の気づきの要因の分析　（査読付）	共	2015年3月	『間谷論集』第9号（大阪大学　日本語・日本文化教育研究会）	概要　：大学生を対象とした短期訪日研修において、学習者の語りから、気づきが何をきっかけに得られたのかを探るためSCAT分析を行い、気づきの要因を抽出した。学習者の気づきには学習環境など来日前の潜在的な要因と、実際の体験や内省の機会といった来日後生じた要因があり、学習者は来日後に自己と向き合う機会を通じて新たな価値観や文化的視点を得ている。 執筆者：野畑理佳、和泉元千春、市岡香代
13.「活動記録」における学習者の文化認識に関する一考察　―学習者の異文化理解へのかかわりを目指して―　（査読付）	単	2012年3月	『国際交流基金日本語教育紀要』8号 pp.41-51	学習者の異文化理解にかかわるための教師の役割について考察することを目的に、試行的調査として「学習者訪日研修（大学生）」における自律学習支援のしかけの一つである「活動記録」から、学習者が文化認識にかかわるどのような記述を行ったかについて分析、「異文化間能力」を構成する要素に関連する記述を取り上げて考察した。
14.国際交流基金レポート(10)「アカデミック・ジャパニーズ指導を目指した初級からのコースデザイン　―アジア・ユース・フォローシップ高等教育奨学金日本語研修の実践から」	共	2010年9月	『日本語学』2010年9月号　（明治書院）　pp.76-85	概要：国際交流基金関西国際センターの専門日本語研修の蓄積を生かした研修として「アジア・ユース・フェローシップ高等教育奨学金日本語研修（AYF研修）」のコースデザインを紹介し、実践を通じて得られてきた共通認識を報告。 執筆者：野畑理佳、和泉元千春、三浦多佳史
15..夏休み子どもワークショップ　「世界中の仲間といっしょに」　―関西国際センター研修参加者と小学生を対象とした国際理解ワークショップの実践記録―　（査読付）	共	2009年3月	『国際交流基金日本語教育紀要』第5号 pp.181-187	概要　：国際交流基金関西国際センターの各研修で実施している小学生との交流事業において、通常の国や遊び、歌等を紹介する活動ではなく、研修参加者と子どもたちが体験を共有し協働する過程において多様性に気づき、共感し、共に創造する楽しさを感じることによって国際理解の感覚を得られるような場「夏休みこどもワークショップ」を企画。その実践を報告。 執筆者：今井寿枝、品川直美、野畑理佳
16.自律学習支援を目指した学習相談の内省的観察　（査読付）	共	2008年3月	『間谷論集』第2号（大阪大学　日本語・日本文化教育研究会）pp.83-108	概要：「日本語学習者訪日研修（大学生）」の自律学習支援として実施される「学習相談」（教師と学習者の1対1で行う学習カウンセリング）について、実際のやりとりを文字化した資料をDIE法を用いて分析し、教師の役割について内省的観察を行った。 執筆者：野畑理佳、和泉元千春
17.タイにおける中等学校日本語教員養成講座の概要と追跡調査報告：タイ後期中等教育における日本語クラスの現状　（査読付）	共	2006年8月	『世界の日本語教育』第16号（国際交流基金）pp.169-187	概要：タイの中等教育レベルの学習者数の著しい増加につながった、中等学校日本語教員養成講座の概要を述べ、修了生への追跡調査報告の結果を踏まえて後期中等教育の日本語クラス開講の現状と現場に立つ日本語教員の現状を報告。本講座参加者は、教員養成講座を修了した後も、訪日研修や各地で開催される研修、通信による学習などの研修に参加し、継続的に学習を続けることによって教員としての自信を深めている。 執筆者：野畑理佳、ウィパー・ガムチャンタコーン
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
1.日本語・日本文化尼日国際シンポジウム		2010年3月	大阪大学 日本語・日本文化教育研究会	コメンテーターとして参加
2.日本語・日本文化タイ日国際シンポジウム ―研究者・高度		2008年3月	大阪大学、日本語・日本文化教育研究会	パネラーとして参加 『日本語・日本文化　タイ日国際シンポジウム ―研究者・高度職業人育成における日本語教育の役割―』（2008年7月）に抄録が掲載

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
１．学会ゲストスピーカー				
職業人育成における日本語教育の役割―				
２．学会発表				
1.言語ヒストリーは，セルフスタディと言えるのか(1) ―日本語教師による日本語教師研究と日本語教師教育者の専門性開発のために―	共	2025年3月15日	日本語教育学会2024年度第4回支部集会（関西）	日本語教師による日本語教師研究として開発された言語ヒストリーが日本語教師教育者の専門性を開発するために資するかどうか、教師教育分野で定評のあるセルフ スタディの視座から、その可能性を考察した。その結果、完全に一致することはないものの、LH が日本語教師教育者の専門性を開発するための研究方法論として十分に可能性が あることを明らかにすることができた。 発表者：小林浩明・上田和子・和泉元千春・野畑理佳 ＜共同研究者＞齋藤眞宏（旭川市立大学）
2.日本語教師によるオートバイオグラフィーの実践と考察 ―日本語教師の「ことば」をめぐる経験の語りから―	共	2023年11月19日	第13回 国際日本語教育・日本研究シンポジウム（香港）	日本語教育に携わるIを含む3名が、「言語ヒストリー（LH）」「言語ポートレイト」を元に行ったオートバイオグラフィーとしての語りを観察した結果から、ある日本語教師の内的キャリア形成がどのように捉えられたかを報告。教師の権威性や複言語性、母語喪失について気づき、言語観、ネイティブ性や母語話者教師というアイデンティティを再構築していくという内的キャリアの意識化が見られた。 発表者：和泉元千春，野畑理佳，小林浩明
3.ポスター発表　日本語教師研究としての「言語ヒストリー（LH）」の実践（２）ーテキストマイニングによるLHの分析	共	2022年11月6日	日本語教育学会2022年度秋季大会	「日本語教師」になる内的プロセスを明らかにすることを目指し、教師自身の言語学習に焦点を当てた言語ヒストリー（LH）を用いた協働実践を行っている。4名の日本語教師の LHの実践のうち「個人のLH記述」について、大量データから新たな知見を得るためのテキスト分析の一手法であるテキストマイニングを実施した。本発表はその結果を報告。 発表者：小林浩明，和泉元千春，上田和子，野畑理佳
4.口頭発表　日本語教師としての「言語ヒストリー（ＬＨ）」の実践	共	2022年3月6日	言語文化教育研究学会　第8回年次大会	日本語話者が日本語教師になっていく内的プロセスを明らかにすることを目指し、日本語教師の経験を振り返る「言語ヒストリー」を実践した。その実践の経過報告と、手法の可能性についての検討。 発表者：上田和子、小林浩明、和泉元千春、野畑理佳
5.ポスター発表 何が学習者の文化的気づきを深化させるのか ―短期訪日日本語研修における実践から―	共	2012年8月	2012年日本語教育国際研究大会（於：名古屋大学）	大学生を対象とした短期訪日研修では、体験を通してさまざまな文化的気づきが生まれる。このような気づきは学習記録の記述など内省を促す機会を通じて意識化されている。しかし、 実際には学習者の気づきがうまく深化する場合と深化しない場合が見られる。本研究では学習者へのインタビューを行い、 なぜそのような違いが生じるのかについて考察した。 発表者：野畑理佳、市岡香代、和泉元千春
6.ポスター発表 大学生短期研修における学習者の文化認識	共	2012年3月	日本語教育方法研究会(JLEM)　第38回研究会　（於：国際基督教大学）	大学生を対象とした短期訪日研修では、自律学習支援の枠組みにおいて個々の学習者の日本語および文化社会についての気づきの記録を促し、それをクラスで共有する機会を設けている。本発表では、短期間の滞在において学習者がどのように文化を認識したかを探るため、インタビューを実施した結果を報告した。 発表者：野畑理佳、市岡香代
7.口頭発表 「論理的表現力養成を目指したディスカッションクラスの試み　―初中級を対象としたアカデミック・ジャパニーズ指導実践」	共	2009年8月	日本語教育学会実践フォーラム　ラウンドテーブル（於：早稲田大学）	発表では、初級からのアカデミックジャパニーズ養成の一環として、初級後半～中級前半レベルを対象とした基礎的なディスカッションクラスの実践と学習者と担当講師に聞き取りを行った結果について報告した。 発表者：野畑理佳、和泉元千春、川嶋恵子
8.協働・創造を取り入	共	2009年6月	日本国際理解教育	本発表では、日本語学習者と子どもたちの交流のためのワーク

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
れた異文化間交流の試み―小学生と留学生を対象としたワープショップの実践より―			学会研究大会　（於：立命館大学）	ショップの実践を報告した。ワークショップで目指した点は(1)「外国」対「日本」の２項対立の図式を緩和すること　(2)「協働・創造」の過程を取り入れ、共に手を取りあい１つの目的に向かう「協働」の過程で、多様性に気づき、背景の異なる他者を仲間として認め、共に「創造」する楽しさを体験できるような場、相互理解の出発点となるような交流の場を実現するという点である。 発表者：今井寿枝、野畑理佳
9.口頭発表 自律学習支援を目指した「学習相談」における教師の内省　－内省的事例の観察－	単	2007年3月	日本語日本文化研究会　（於：大阪外国語大学）	「日本語学習者訪日研修（大学生）」の自律学習支援として実施される「学習相談」（教師と学習者の1対1で行う学習カウンセリング）について、実際の談話をDIE法を用いて分析し教師の行動について内省的に観察した。教師は学習者との認識のずれを修復するための交渉に着目。 発表者：野畑理佳　（共同研究者：和泉元千春）
10.「学習相談」における教師の役割に関する一考察	共	2006年10月	日本語教育学会秋季大会　（於：熊本県立大学）	自律学習支援の一環として行われている「学習相談（学習カウンセリング）」のやりとりをマイクロカウンセリング技法の観点から分析し、評価的な視点で「学習相談」における教師の役割を考察した。 発表者：和泉元千春、野畑理佳
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.「日本語教師の言語ヒストリー（LH）―ことばをめぐる経験・実践そして研究へ」	共	2025年3月16日	研費研究成果報告会公開シンポジウム	JSPS科研費（21K00617）研究テーマ「日本語教師研究手法としての言語ヒストリーの検証」（2021-2024)の成果公開として、「言語ヒストリー（LH）」の実践例を紹介し、日本語教師自身による教師研究として、研究成果について報告。Self-Study研究との関連について触れつつ、LHを書くことについて参加者と話し合う機会を持った。 共同発表　研究代表者：上田和子 研究分担者：小林浩明、和泉元千春、野畑理佳 招待講演者：齋藤眞宏　（旭川市立大学経済学部　教授）
６．研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2023年4月16日～	大学日本語教員養成課程研究協議会　会員
2.2020年4月～	日本質的心理学会　会員
3.2016年9月～	言語文化教育研究学会　会員
4.2015年～	異文化間教育学会　会員
5.2008年4月～現在	日本語日本文化教育研究会（大阪大学）　運営委員
6.2008年4月～	日本語プロフィシェンシー研究学会　ジャーナル編集委員
7.1996年～現在	日本語教育学会　会員